

(様式1)

令和6年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立（下阿多古小）学校運営協議会長

＜本年度の目標＞

- ・3年目となる学校運営協議会は、地域として、経験を通じて生きる力を養える場を提供していくにはどうするかを熟議し、必要な人材を積極的に探していく。
- ・「あゆっ米」の販売を実現するための支援を熟議する。
- ・引き続き、学校と連携協働し、ICTの支援について熟議を進めていく。

＜評価項目1＞ 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

運営協議会の発足から3年目となり、出席委員は学校運営に関する協議会への理解も深まり、基本方針についての熟議が十分にできたと考えている。

教育目標であるふるさとを愛する子供の育成のため、従来から続けてきた田植えや水生昆虫の観察などの行事とは別に、各種人材の提案・提供やサポーター制度の創設等、実行可能な活動を3年間かけて考え、熟議してきた。

＜評価項目2＞ 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

学校運営に関する総合的な熟議や授業参観で見聞きした子供と教員の教育風景や関わり方に積極的に感想を述べるなど、協議会活動は有効的だったと考える。

また、下阿多古の自然や地域の特色をワークショップで討論するなどコーディネーターを中心に活動を行い、子供たちの知識を深める場所が何処にあるかを協議できた。

コーディネーターが運営協議会活動への思い、地域と学校との関わりを熱く語ってくれたことは、単に持論を出し合うのではなく、どうすれば教育環境を共に良くしていくかを改めて考えさせてくれた。

＜評価項目3＞ 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

3年間学校での支援活動や地域内での行事について、コミスク便りやホームページ、また委員それぞれが情報発信に努めてきたが、まだ地域や保護者には完全には理解されないでいる。保護者との協力は不可欠であり、今後はPTAの力をお借りし、学校と地域と保護者との距離を縮め、コミュニティ・スクールとしての認識を広げていきたい。

＜評価項目4＞ 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）

- ・次年度の教育目標を踏まえ継続的、持続的に熟議し、学校運営協議会の考え方を醸成させていく。
- ・子供たちが貴重な体験を積むために必要な新たな人材や場所等の情報提供および発掘について熟議する。
- ・委員が主体的に情報を取り入れ、地域を巻き込んで育成支援する体制づくりについて熟議する。